

救急外来における窒息に関する多施設前向き観察研究

研究の目的・意義

救命救急センターには、気道異物により窒息した患者様が日々救急搬送されています。人口動態統計(2015)によれば、窒息による死亡者数は約1万人程度で、2006年に交通事故を抜いて以来、不慮の外因死の第一位です。交通事故死が毎年減少しているのに対して、窒息による死亡者数は毎年増加しています。そのほとんどが高齢者で、さらに高齢化が進むことにより、その数は今後も増加されることが懸念されています。

一方で、窒息に関する研究データは不足しており、例えば米国心臓協会(AHA)を含む、国際的な蘇生のガイドラインでは、2005年以降、窒息に関する新たな記載はありません。本研究では、世界に先駆けて高齢化が進み、窒息が公衆衛生上の問題となっている本邦にて、窒息の現状を把握し、応急手当や治療に関するエビデンスを提供することを目的としています。

研究の実施体制

- 研究責任者：五十嵐 豊（日本医科大学付属病院 救命救急科 助教）
- 分担研究者：高瀬 啓至（仙台市立病院 救急科 医長）、横田 裕行（日本医科大学付属病院 救命救急科 部長）、中江 竜太（救命救急科 病院講師）、乗井 達守（University of New Mexico Assistant Professor of Emergency Medicine）、他 全国 22 施設代表者（エントリー拡大中）

研究の方法

令和3年12月1日以降に救急外来を受診された患者様の中で、気道異物により窒息した方の診療録を調査します。診療録から一部の情報を抽出し、複数の医療機関で共有できるようにインターネット上に登録します。情報はインターネット上への登録の段階で匿名化し、取り扱うデータからは一切個人の特定ができないよう配慮致します。

本研究への参加で、対象となる方やご家族に直接何らかの利益が生じることはありません。一方で、不参加を表明された場合に不利益を被ることもありませんので、対象となる患者様に当たっては、本研究の参加を拒否されることも自由です。

データの抽出期間は令和3年12月1日～令和5年3月31日までです。ご質問などがございましたら、この期間内に下記連絡先までお問合せください。

連絡先：仙台市立病院 救急科 高瀬 啓至
電話：022-308-7111